

サポート・ご協力 ありがとうございます

- 平成20年度 継続会員 (敬称略・順不同、2009年4月1日～2009年5月30日) (準会員)後藤美香、三浦隆弘
- 平成21年度 継続会員 (2009年4月1日～2009年5月30日)
(正会員)後藤美香 (準会員)高松市ボランティア・市民活動センター
- 企業・団体協力 (50音順、敬称略)
岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)富士ゼロックス宮城(株)(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

お知らせ

日本サードセクターJACEVO in 仙台

日本サードセクター経営者協会(JACEVO)会員募集キャンペーンin 仙台
「日本のサードセクター構築の方向性」

- 日時: 2009年7月27日(月)13時半～16時半
- 内容: 話題提供 太田達男氏 公益法人協会理事長
パネルディスカッション

入場無料

後房雄氏(特定非営利活動法人 市民フォーラム21・NPOセンター代表理事)
太田達男氏(公益財団法人 公益法人協会理事長)
加藤哲夫(特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター代表理事) 他
参加者意見交換(予定)

- 会場: 仙台市民活動サポートセンター 6Fセミナーホール
仙台市青葉区一番町4-1-3 TEL:022-212-3010

*詳細が決まりしだい、当センターHPやブログ等でご案内致します。
*サードセクターとは、企業・行政と並ぶ三番目のセクターとして存在感を示す必要があることを意図した表現です。具体的には、社団法人・財団法人(一般・公益)、社会福祉法人、学校法人、医療法人、宗教法人、更生保護法人、協同組合、社会的企業、NPO法人を含めた、社会的課題を解決する広域な組織群示しています。

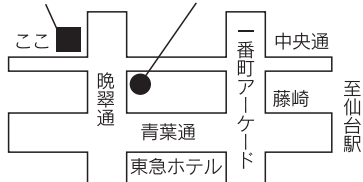
連絡先

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F
TEL:022-264-1281 FAX:022-264-1209
E-mail:minmin@minmin.org HP:http://www.minmin.org/

第11回通常総会
2009年9月5日(土)
お待ちしております。

発行:(特活)せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事 大滝精一・加藤哲夫 1Fファミリーマート セブンイレブン
編集部:小川真美・紅邑晶子・
布田剛
発行日:2009年7月1日
デザイン:氏家朗



岡元ビル4F 仙台駅から徒歩20～25分

プロペラトークス vol.2

第2回目に「いのち」のリレーを紡いでくださるトークゲストは、依存症治療の第一人者、東北会病院院長でもあり、ワナクリニック院長でもいらっしゃる石川達先生です。また今回も心を揺さぶられるお話を聴くことができるに違いありません!ご参加お待ちしております!

ゲスト:石川達さん(東北会病院院長、ワナクリニック院長)
開催日:平成21年7月23日(木) 時間:19:00-21:00
会場:シャンパンハウス「ル・オー・ルージュ」
仙台市青葉区大町1-3-11 TEL:022-211-4646

参加費:2500円
※予約制です。定員(20名)になり次第締め切ります。
※詳細は当センターHPまたはブログでご確認ください。

加藤哲夫のNPO経営相談

開催日:平成21年7月28日(火) 8月25日(火)
開催時間:13:00～17:00
場所:せんだい・みやぎNPOセンター
相談料:2,500円(1時間単位、会員は500円引き)
※予約制です。まずはお電話を。

| 編 | 集 | 後 | 記 |

このニュースレター「みんみん」の担当になり、これで3回目の発行。5月から配信を始めた「みんみん」メールマガジン(通称みんメル)も第4号の配信を終えたところ。ブログやポータルとも合わせ、何やら情報発信係をていしてきたような感が。。ということで、みんメルはこちらからご覧頂けます!(OGAWA M)
http://groups.yahoo.co.jp/group/minmin_npo_toko/

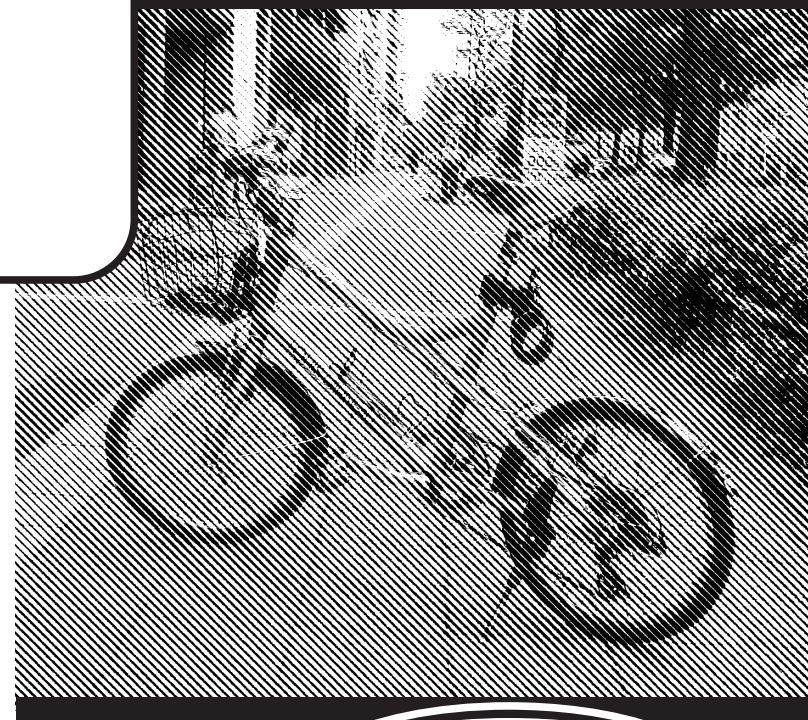
今年は選挙の多い年です。7月には仙台市長選。その後は衆議院選と県知事選です。特に自分の住む街の首長選は、他人ごとではいけない「選ぶ責任」があります。7月6日(月)18時から仙台市市民会館小ホールで行われる仙台市長選候補者による公開討論会、マニフェスト選挙が当たり前になってきている今、どんな展開になるか興味しんしんです。(べにむら)
<http://blog.canpan.info/sendai-senkyo/>

7月からセンターの新年度がスタートです。相変わらずの怒涛の一年を9月の総会に向けて事業報告書にまとめなければいけません。この一年のセンターの動きがよくわかる報告書に仕上げる予定ですのでご期待ください!(布田剛)

みみん

【題字】谷川俊太郎さん

MY FAVORITE お気に入り小物拝見



理事対談のお相手の大泉さんに、前もってお気に入りの小物を持って来て下さいとお願ひしていた所、何とそれに乗って来ていただきました。愛用の自転車がそれです。健康維持の為や経費節約もかねて、プライベートだけでなく通勤や取材の時にも利用しているの事です。河北新報本社には、社員の呼びかけで共用の自転車が10数台常備されているそうです。なるべく裏通りを走るようにしており、毎日新しい発見があり、とても楽しいとおっしゃっていました。

■目次

- P2～3 理事対談 河北新報社 記者 大泉大介さま
- P4～5 せんだい・みやぎNPOセンターの事業から(2009年4月～5月)
- P5…… ちょっとかじってみよう! CSR®
- P6…… ようこそ、大町事務局へ! (NEW)
理事リレーコラム「私と市民活動」渡辺 一馬
新スタッフ紹介
- P7…… らんち de MATCH♪④
- P6～7 みんみんメルマガのご案内
- P8…… 新規会員・継続会員、編集後記、お知らせ、連絡先等

理事対談 「NPOとメディアの関わり方」

第7回の理事対談は、河北新報社編集局報道部記者の大泉大介さんと当センターの加藤哲夫代表理事です。取材「する側」と「される側」の両者。今後の市民活動とメディアの関わり方について語りあっていただきました。

■「定禅寺通り支局」なんていうのもあり？！

加藤／大泉さんの現在の所属とお仕事の内容をお話して下さい。
大泉／本社編集局報道部仙台圏取材班というセクションに所属しています。昨年4月に出来た新しいチームで、現在8人の記者がいます。今までの記者クラブの枠をこえた、むしろ今まで記者クラブが扱わなかった「隙間」を取材して、報道していこうという趣旨で出来たセクションです。河北新報の朝刊は通常「宮城県内版」という面が4ページあって、主に県内の支局の原稿が載るんですが、パッと紙面を見た時に、一番読者の多い仙台の街の話題が意外と少ない、というのが社内的な反省点としてあって、一番のマーケットである仙台の出来事をきちんと伝えていこうというのが、そもそもの出発点です。大崎や石巻など、地方の話題が盛り込まれているのに、肝心の仙台が手薄だった。記者クラブに属していないので、プレスリリースなどが入ってくることはないんですね。だから記者が自分の興味・関心や、個人の人脈・ネットワークでテーマを見つけて取材しています。
加藤／地方支局が頑張ってる町の話を持ってきてくれないですか。あの感じが仙台には少ないですね。
大泉／おっしゃる通りです。地方支局には原則記者が一人しかいないので、自分の城という意識が強く責任感も持っています。と

ころが仙台は記者が沢山いるので、お互いお見合いしてしまい、街の情報を拾う意識が薄れてしまう。今後のあり方としては、個人的には「定禅寺通り支局」とか「柳生支局」とか、もっと分割してもおもしろいと思っています。その方が地域密着度が出る。もっとも地域を深堀りすることが地方新聞には重要だと思います。加藤／確かに、いろいろな情報を提供しても反応が薄いですね。大泉／仙台のNPOの方々が我々メディアとどうつながっていくのかがいいの。プレスリリースを色々な所に投げまくればいいのかというと、そうではない。それではたらい回しのリスクを抱える。興味・関心がある程度一致して、問題意識を共有できる記者を特定してつきあっていく事が必要ではないかと思っています。

■「活動をニュースにしてもらう」というより 「よいニュースになるように活動する」という視点で

加藤／せんだい・みやぎNPOセンターが支援している団体が、世の中に評価されるようにする事も我々の仕事の一つですが、マスコミに載る事もプラスの要素であり、効果が出ると思っています。大泉／マスコミに出るといふ事はどういう事なのか。書く側から考えてみた時に、NPOで言えば社会的ニーズにフィットしているとか、時代のトレンドだとか、取材している感覚からすると、ニュースになるNPOは世の中に一番喜ばれる事をやっていると感じるんです。逆に言うと、ニーズに答えきれていなかったり、社会的必要度が弱いところは、こちら書きづらい。記事が書けるといふ事は、それなりに社会的に評価できるという事とイコールなんです。現実には社会的ニーズがあってNPOは活動を始める訳ですが、ニュースになる事をしようと思って活動を始めると、結果的には意外と同じ事が出来てしまうと思います。活動をニュースにしてもらうのではなく、ニュースを作ろうと思えば、結果としていい活動が出来るのではないかと思います。我々がやっている日々の仕事と、NPOが目指しているものとは、ほとんど変わらないのではないのでしょうか。
加藤／それはいい発想だと思います。今度、団体が社会にもたらす5大ニュースを作るというワークをやるんです。毎年良いニュースを実現するための計画を作る。自分の団体が来年どのように河北新報さんに取り上げられたいかというニュースを先に作って、そのニュースに合わせて活動を考えるという、戦略的な思考回路のためのワークなんです。今のお話にピッタリですね。
大泉／私もそう思います。記者として一番つらいのは、リリースをもらって取材に行っただけでも、どう考えても記事にならない場合です。こうすれば記事になるのと思う事が多々あります。地域の発展があって初めて成り立つのが新聞という存在なので、こちら側からの提案や助言を取材現場でもっと活発に出来たら、お互いに良くなるのではないかと思います。記事にならなかった

ゲスト

大泉 大介さん
河北新報社編集局報道部記者



理由を当事者にフィードバックする事も、我々の重要な役割だと思っています。もっと早い段階からリリースの概要を教えてください。さらには良いアドバイスも出来ると思います。

■記者一人を説得出来ない様なら、 地域の人たちにはもっと伝わらない

加藤／せんだい・みやぎNPOセンターの運営で、仙台市市民活動サポートセンターという公共施設が、市民活動の情報の拠点として10年間成功して来ました。それより以前は、そのような拠点は存在しませんでした。多様な市民の情報を当たり前置いて、誰もが持っていいですよという公共施設はありませんでした。(註1) そこが変わったと言うのは画期的な事です。骨プロ(註2)の開発も市民活動情報の流通に大きなインパクトをもたらしましたね。



大泉／10年前、サポートセンターが本町に出来た時のあの衝撃は、今でも鮮明に覚えています。一つの時代の変化を感じました。そこで色々な人と会いましたし、色々な人たちの話も聞きました。今でもその人たちとつながっています。あそこに行けば、市民活動に燃えている人たちに会えた。我々もその道のプロではないです。素人ですので、ある意味、市民活動を行なっている人たちに、初めて様々な地域の課題を教えてくださいました。市民活動に関する知識は、ほとんどがそうした取材の蓄積です。活動している人たちに教えてもらう以外にないんです。ですから、市民活動をしている人たちには、「報道してもらうんだ」ではなく、「記者に教えてやるんだ」ぐらいの感覚で情報提供していただけたらと思います。
加藤／市民活動をしている人たちは、「メディアは私たちの事を、そんなに良く知らない」と言う事を理解していないと思います。わかっているって当然と思っちゃうのですが、それでは伝わりませんね。

大泉／記者の不勉強を顧みず言うように恐縮ですが、活動を広めるという意味では、記者一人を説得出来ない様なら地域の人たちにはもっと伝わらないと思います。少なくとも記者は聞こうという耳を持っている訳です。地域の人たちに、どうやったら活動を広められるかという事の練習台として、記者を利用して欲しいと思います。市民活動団体の次のステップ、次の段階にもっていく時の仕掛けとして、報道を使う事も一つの方法だと思います。うまく取材に答えられる事、結果として新聞に載ったことに関して、色々な反響が生まれる事を含めて、報道を自分たちの活動を継続、発展させる為の一つの栄養源として、使ってもらえたらありがたいと思っています。
加藤／ITの発展など、メディア環境は大きく変化しましたが、新聞に取材してもらおうという方法は、自分の書きたい事を書くのではなく、記者(という他者)の目を通してのわけです。ますます必要になっていますね。
本日は本当にありがとうございました。

(記録・編集:伊藤 香)

(註1)エルパーク仙台の情報コーナーはそういうスペースだったが、その後、政策目的に沿うチラシ中心に変更になった。
(註2)市民による情報の受発信を支援し、市民活動に関する情報を多く市民に届けるため、仙台市内の10の公共施設が協力して行うプロジェクト。

加藤 哲夫
特定非営利活動法人
せんだい・みやぎNPOセンター代表理事



プロペラトークス

5月21日(木)、特定非営利活動法人ロージーベル理事長の大沼えり子さんをゲストに、第1回プロペラトークスが開催されました。年間を通してのテーマは「いのち」、会場は一見ミスマッチにも思えるお洒落なシャンパンハウス、「ル・オー・ルージュ」です。

大沼さんは、理事長として少年院出院後の受け入れ施設建設に向けて奔走する傍ら、保護司、少年院向けラジオDJ、シンガー、そして割烹の女将など、幅広く活躍されているパワフルな女性です。シャンパン、ワイン、ビールなど、それぞれドリンクを片手にリラックスした雰囲気の中、ロックなBGMと共にプロペラトークスはスタートしました。

まずはDJ Rosyとしての第一声が終わると、次は一転して保護司の顔の大沼さんの登場です。少年院の話は想像を絶し、冷えきった家庭環境や人生を送る子ども達が多く存在することに驚くと共に、そのような環境に子どもを置く大人たちに何とも言えぬ憤りがわいてきます。その反面、そうするしか術がなかった大人の方こそ、実は第一に助けが必要だったのかもしれないと思うと、安易な犯人探しでは済ませられない、様々にからみあう根の深い問題が浮かび上がってくるようです。

少年からの感謝の手紙の朗読を交えたお話の中に、大沼さんの少年に向けた大きな愛情を感じずにはいられません。感極まって涙がこぼれるお客様が何人もいらっしゃいました。

アンケートでは、「薄暗い会場のお陰で涙でグジュグジュの顔を見られなくてよかった」「大沼さんから元気をもらいました」「朝食と一緒に食べることを知らない家庭があるなんて信じられない」などの声が寄せられました。

次回のプロペラトークスは7月23日(木)、ゲストに依存症治療の第一人者、ワナクリニック石川院長をお招きしての開催です。(詳細裏表紙参照)どうぞご参加ください！(小川真美)



アラバキ ロックフェスティバル

4月の25日、26日に行われたアラバキロックフェスティバルで、せんだい・みやぎNPOセンター初の試み、NPOのワークショップを実施しました。実は昨年、仙台、宮城県で活躍するNPOをこの会場の一角を使い、ワークショップなどを通してイベントに来る若い人にも楽しみながら、知ってもらうきっかけになればと思ってひそかに企画していました。今回の参加団体は、NPO法人「笹舟」と大河原が活動拠点の「アート屋台プロジェクト」の2団体。笹舟は体験型ワークショップで行う笹舟づくりを通して、荒廃した里山の環境問題を考え、実際に体を動かしながら里山保全に取り組んでいる団体。アート屋台はアートを通しての人の交流、まちの資源発掘、まちづくりなどを目的とした団体。里山再生プロジェクトの一環で地域の竹林の竹を使ったプログラムなど面白い企画を実施しています。当日は笹舟による「廃油のキャンドル作りWS」とアート屋台プロジェクトの「竹のマイ箸づくりワークショップ」。どちらの団体も、盛況で、スタッフとお客さん、そしてお客さん同士の交流が自然と生まれていました。ワークショップを実施したスタッフも、全国各地からきた方との交流を楽しんでやっているようでした。



お客さんの反応も良く、みなさん、自分がみたいステージとの合間の時間をワークショップに参加して、ステージを観る、食べる、以外の選択肢として喜ばれていたと思います。また、NPOについて全く知らないお客さんがほとんどだったかと思いますが、NPOについて質問されたりするので、そういったことを説明する機会にもなりました。

天気はあいにくの雨でしたが、企画した側にも参加したNPOにとっても楽しい・有意義な2日間でした。来年も、少し規模を広げてできればいいなと思っています。(田内亜紀子)

事業報告書大賞決定！！

5月29日(金)の午後、「事業報告書表彰制度」の審査会が、加藤代表理事、紅邑常務理事と大町事務局スタッフとで開かれました。この制度の趣旨は、団体が懸命に作成した報告書を表彰という形で広く知って頂くと共に、他団体でも報告書作成の見本として参考にして頂こう、ということで企画されたものです。

対象となったのは、2008年度に行われた4つのファンド(みんなん本体ファンド、ふくふくファンド、ろうきん地域貢献ファンド、みやぎNPO夢ファンド)の助成団体より提出頂いた全ての報告書です。審査に関わるスタッフは、数日前からそれぞれ報告書を読み込み、審査結果表を持ち寄って審査会に臨みました。助成金をどのように活用したのか、どんな成果が得られたのか、見えてきた課題は何であるか、基本的に報告書ではそのような事柄を規定書式にそって記入頂くのですが、記入者により表現方法や書き方が違ってきます。今回の評価基準は、活動の様子や成果が分かりやすいか、図やイラストの使い方は効果的か、読み手が応援したくなる内容か、などの視点から選考させて頂きました。

約2時間の論議の結果、大賞は全員一致で特定非営利活動法人ワンダーポケットさんに決定。決め手は、写真を上手に使い視覚的にも分かりやすくまとめられている、事業の趣旨や目的が明確であり、その進行状況や事業参加者の様子もよく分かる、という点でした。既に株式会社ノ蔵さま、東北ろうきんさまを始め、いくつかの企業さまより素敵な賞品が贈られることが決定しております。その他、惜しくも大賞を逃した2団体に大賞次点、3団体に部門賞が決定し、受賞外の団体さんも含めてこれまでの健闘と今後ますますの活躍をお祈りし、選考会は終了となりました。

詳細は、こちらからどうぞ。(小川真美)
<http://blog.canpan.info/minmin/archive/150>



チョット

かじってみよう！CSR。

8

「CSR推進相談所・繁盛記」

CSR推進相談所を設置してから、早いもので1年になりました。企業の方が社会貢献活動やCSRに関する取り組みを検討されることが増えてきているのを意識して、このような旗をあげてみたのですが、思いのほか多くのお問い合わせをいただいています。先日、サポート資源提供システムの報告書作成でまとめたところ、なんと10件以上の相談に対応していました。

企業の社会貢献活動についてのご担当は、たいてい総務にご所属で、他にも色々なお仕事を抱えています。従って、社会貢献活動にどのように取り組むかについての時間をわざわざ作りだすことも難しく、ノウハウもありません。「やりたいけど、できない」これが現実です。

そんな担当者のかゆい所に手が届くというのが、サポート資源提供システムやNPO情報ライブラリーのしくみでしたが、その仕組みを理解するにも時間がない。そこで、簡単にアクセスできたのがどうやら「CSR推進相談所」だったようです。どんなにいろんなサービスが電子化してweb上でお悩み解決できても、実のところは直接会ってケースバイケースのご提案をするアナログな対応のほうが喜ばれるようです。

そして、何より大切なのが「顔」と「顔」をつなぐこと。企業の方のニーズを伺い、企業が持っている資源を棚卸していただき、それに合った提案をするには、顔の見えているNPOの存在が不可欠です。その点、NPO情報ライブラリーにご登録いただいている団体で頻りに情報を提供していただいているところは、私たちも企業につなぐ先として紹介しやすいものです。

2年目に突入した相談所。どうかお気軽にご相談ください。今のところ、相談料無料で頑張っております！！(相談所所長：紅邑晶子)

その1

ようこそ、大町事務局へ!

仙台市青葉区大町にある当センター事務局にお出でになったことのある会員の皆さんは、いったいどれくらいいらっしゃるのでしょうか? 仙台市市民活動サポートセンターが当センターの事務所と勘違いしている方も多く、ときには榴ヶ岡のみやぎNPOプラザと思っている人もいたりします。確かに、大町事務局は知名度がかなり低いのです。

そこで、最近意識的に(?)大町事務局にお越しいただく機会を増やしています。たとえば、せんだいCARESの参加団体向けの説明会、NPO夢ファンド等の相談会と助成金を獲得した団体向け説明会、中古のパソコンを希望される団体向け説明会などなど。

当センターの事務局は、46坪のウナギの寝床のように細長一

いワンフロア。入口を入ってすぐには、打ち合わせスペースが3か所。ここには、約140団体の情報ファイルをストックしているあの「NPO情報ライブラリー」もあります。ほかには、当センターの販売図書や各NPOから送られてきたチラシのラック、当センター関係のイベントチラシやニュースレター、参考図書や報告書が置かれています。ここまでがオープンスペースになっていて、さまざまな相談会や説明会はこちらの場所で行っています。

その先は、カウンターをはさんでスタッフが勤務する事務局スペースです。現在は、常勤スタッフ4名(小川・加藤・紅邑・ゆうさ)と3名の非常勤スタッフ(田内・谷口・布田)、そしてボランティアスタッフの針生君(毎週火曜日)の8名が勤務しています。事務局スペースの奥は、スタッフ用の青い会議テーブルとロッカー。そしてその先は印刷機、コピー機、FAXといった事務機器と書類や紙類などのストックヤードがあります。

お近くにおいでの際は、お立ち寄りください。手土産大歓迎です!! (べにむら)

●理事リレーコラム

「私と市民活動」

渡辺 一馬

(株式会社デュナミス 代表取締役社長)

みなさん、はじめまして! 昨年からは理事をやっております、株式会社デュナミスの渡辺一馬です。今後ともよろしくお願ひいたします。

さて、私の最初の市民活動は15年前の高校生時代、いわゆるジュニアリーダー活動(高校生が小学生に遊びの指導をする)への参加から。当時は「ボランティア」と思っていたが、あれは若者の主体的な参加によって成り立つ「市民活動」。高校生たちが毎日公民館に集まり、活動を構想したり、遊びの練習をしたり…。

その後、宮城大学へ1期生として入学。1期生ですから先輩はいません。よってサークルも大学祭も無い。無いものはつくってしまおうと、自治組織をつくり、全てを立ち上げていきました。以上のような活動が原体験となり、その後の私の市民活動への参画を支えています。

ここ最近の関心は、キャリア教育問題。これから地域を担う

のは、もちろん今の若者たち。しかし、社会や若者の変化に合わせた仕掛けが足りず、結果、目的意識をもてずに社会に出て行かざるを得ない若者が大量輩出されています。

だったら新しい社会参画の仕掛けをつくろうと、大学時代に立ち上げたサークル「デュナミス」を法人化し、インターンシップコーディネーターや就職活動支援などの各種事業を運営しています。

また、多様な大人との出会いによって、若者の夢を鍛える市民活動、NPO法人ハーベストの運営もサポートしています。数多くの出会いとこれまでの活動で染みついてしまった「無いものはつくるしかない」という行動原理。

きっとこれからも市民活動家というか社会起業家的な生き方を選び続けるでしょう。次世代に、というか、自分の子どもに誇れる社会をつくるために。

新スタッフ自己紹介

好きなことは、フットサル、自転車、すずめ踊り、パーカッション等々…、まだまだ色々な事に興味津々です。仙台の文化や市民活動が持つ色々な可能性の中で、どんどん成長していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひ致します。

菊地竜生(勤務地:仙台市市民活動サポートセンター)

きっと役立つ「みんな」メルマガ

4月に準備号を配信し、5月より月2回のペースでセンターのメルマガが始まりました。

らんち de MATCH♪

第4回

今回の「らんち de MATCH♪」は、ゲストに「財団法人宮城県国際交流協会」企画事業課長の大村昌枝さまと、「特定非営利活動法人FOR YOU」にこの家」理事長の小岩孝子さまをお迎えしました。(財)宮城県国際交流協会さんは、地域レベルの国際交流・協力活動を推進するために設立され、日本人対象の企画はもちろん、在日外国人が宮城県で気持ちよく暮らせるような情報を提供するなど、多様な活動をなさっています。もう一方の(特活)FOR YOUにこの家さんは、子どもから高齢者、障がいを持つ方など、人々が気軽に集い交流できる憩いの場創りをミッションに、ミニディサービスや児童館などの運営を行っている団体です。5月にしては暑いこの日、炭火焼きのお店にて賑やかなランチが始まりました。

一言いだしっぺの孤独と辛さ

お二方とも他組織との連携による相乗効果に期待なさいますが、その実行の為に乗り越えねばならない壁は決して低くないようです。

大村さんをご経験上から「他組織と組む場合、異分子に対しての抵抗をすごく強く感じる」ことがあります。でもいざ他組織を巻き込んでイベントなど行ってみると、互いに視野も広がるし参加者がグッと増えます。ある時などは国際交流とは異なる団体との共催事業ということで心配していたのにも関わらず、結果的に会場に溢れんばかりのお客様がいらしてくださいました。国際交流を知って頂くには、これは何にもまして喜ばしいことです。最初は大変でも結果的に全体での成功につながることを考えると、私のような憎まれ役も必要かもしれません。」と話されます。それを受けて小岩さんも「無理と思っても進めなくてはいけない時があります。その時は抵抗を受けながらも何とかやってみるんです。結果的に終わってみると思った以上の波及効果が得られていたりします。いつもその繰り返し。言いたし



っぺが一番大変、反対は当たり前。10人中2、3人が賛成してくれれば何とか出来るものです。」と苦笑しながらおっしゃいます。抵抗されても組織の未来を考えるとやらずにいられない!の意気込みで物事を進めるパワフルなお二方です。

ネットワークづくり

「自分から手を伸ばさなければ何もつながらない。国際交流は手段であり目的ではないけれど、残念ながら目的になっている団体も多い。仕掛ける側としてはきちんと戦略を持つべきです。」と大村さん。それを受けて紅邑理事が「当センターではネットワークづくりを大事にしています。この「らんち de MATCH♪」もそこを意識して企画されていて、こうしてランチをご一緒すると情報交換しやすい関係になれる。より関係性が密になります。」と説明。

小岩さんも「子育てするお父さんの会、とうちゃんS' という会をまとめているのですが、やはり一緒にお酒を飲みながらコミュニケーションを深めていきます。すると親密度合いが高まるんですね。」とおっしゃいます。3名のお話を伺うと、ネットワークには参加者の意識、上手な仕掛け(場づくり)、そしてもしかすると食事(お酒?)の3つがキーポイントのようです。

濃い内容が続く「らんち de MATCH♪」次回もお楽しみに!(小川真美)

■市民活動に関するお役立ち情報満載!

メルマガでは毎月「会計・財務」「広報」など、テーマを決めて市民活動に役立つホームページやブログの情報を掲載しています。ウェブ上には種々な情報が溢れており、いざ必要な情報を探そうとしてもどれが有用か分かりにくいものです。そんな時にぜひこのメルマガのお役立ち情報をご利用ください。

■センターの情報を横断的にお伝えします

当センターが運営を担う公共施設も、今年で10周年となる仙台市市民活動サポートセンターをはじめ、仙台・多賀城・名取に4つになりました。これら公共施設の運営だけではなく、もちろん本体であるせんだいみやぎNPOセンターとしての事業もあります。このメルマガは、各施設ごとになされている情報発信をセンターとして横断的にお伝えする役割も持っています。

■いますぐ登録ください!

みんなメルマガは既に144名の方に登録していただいています。登録をご希望の方はセンターの代表アドレス(minmin@minmin.org)宛に件名を「メルマガ登録希望」として、お名前とご所属を記入の上、登録希望アドレスでお申し込みください。読者のみなさんからのご感想もお待ちしております!(布田剛)